# 一誌一会

## 「稲」五月号

令和二年九月、神奈川県逗子市で山田真砂年主宰創刊。師系鍵和田釉子。今の自分の言葉で実感のある句をめざす。コロナ禍により活動を自粛せざるをえない中、郵便・インターネットによる句会を実施。「隔月刊」

「島の春」二十句より　山田真砂年

白梅の陰の青さや貴種流離
軽く手を触れ春愁の自動ドア
人去ねば大島桜しづかな息

自動ドアに俳人の繊細な心が宿る。写生句では写生を超えた俳句眼が詩に昇華した。

◇鍵和田釉子一句鑑賞　北原昭子

「花茨ゴルフボールが孵りさう」

邪気のない溌剌さに導かれたと記す。

◇主宰の一句鑑賞　高田　峰

「人間(しんかん)を疎にして夏の来たりけり」

「人と人とが分かり合える感覚」が疎になってしまった。コロナがさらにそれを加速したと鋭く問う。

◇瑞穂集・稲穂集　山田真砂年選

走るには重たき靴や霜柱　飛田小馬々
速報のグラフ尖れる余寒なほ　池田美和
さまざまの木型に春日さす菓子舗　細井恵子
降る雪や薄墨色に友来たる　岡本秀子
桜湯やゆつくり咲いてティカップ　今井　基
冬の蝶翅を広げしまま石に　中村かりん

◇稲の香（選評）　山田真砂年

表紙裏に「俳句は詩です／詩は心のゆらぎ　きらめきです〈中略〉今の己の身の丈にあった言葉で表現しましょう」と説く真砂年主宰の選評は一句一句を深く掘り下げ、どこに詩が存在するのか分かり易く解説。

◇課題句「メーデー」　池田美和選

たつぷりと労働祭の日の朝餉　角之助
来し方も今も「ノンポリ」メーデー歌　賀
メーデーのオンライン開催快晴に　文平
あの頃は牛のごとくにメーデーへ　実

# 田中洋子

文章も大変充実している。

「三橋鷹女の世界」（六）槍田良枝(うつぎた)。昭和初期の鷹女について詳細に書いている。

「現代俳句鑑賞」滝代文平。俳句総合誌より九句取り上げて丁寧に鑑賞。

エッセイ「花のやうなる―中川宋淵の俳句」（三）飛田小馬々。

「受贈句集紹介」は真砂年主宰。福井隆子句集『雛箪笥』。伊藤政美句集『雪の花束』。細谷喨々句集『父の夜食』。すずき巴里句集『櫂をこそ』。

◇各地句会報

蜷の道他人とうまく交はれず　真砂年
そよぐたび羽になりゆく白木蓮　小馬々
喪帰りの鍵穴の闇おぼろ月　秀子
検温器踏み絵のやうにあちこちに　恵美子
灯の消えて深雪にしづむ金色堂　実

コロナ禍で句会や吟行会が自粛になった結社も多い。真砂年主宰のブログは充実して、己の内面への思索が深まる表現が多い。